



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.231

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2025年2月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：市井和仁)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832/Fax: 043-290-2024
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

第27回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム開催

CEReS は、文部科学大臣の認定を受けた環境リモートセンシング分野の共同利用・共同研究拠点であり、国内外の研究機関との共同利用研究を推進しています。共同研究を通して環境リモートセンシング分野における研究成果や社会への還元を拡大させることが CEReS の存在意義の一つです。CEReS 環境リモートセンシングシンポジウムは1年間の共同研究の成果を発表する場、及び情報交換の場として毎年開催されています。本年度は、令和7年2月19-20日に2日間にわたりハイブリッド形式（本学けやき会館の会場とオンライン）で開催いたしました。会期を2日間としたのは初の試みでした。こうしたことによって、参加者からは充実した声をたくさんいただきました。また、ハイブリッド形式としたことにより、アジアだけでなく米国・欧州からのオンライン発表も可能となり、国際シンポジウムとしての国際色を色濃くしつつ、本学学生などを含めた現地参加者も交えた大変活発な議論の場となりました。当日の発表題目等の詳細なプログラムは、以下の CEReS ウェブサイトに掲載されておりますので、ご参照いただけたら幸いです。翌年度の共同利用研究公募を間もなく開始します。公募要項は近日中に以下の CEReS ウェブサイトに掲載します。皆様の積極的なご応募を待ちしております。



本年度の CEReS シンポジウムのプログラム： <https://ceres.chiba-u.jp/5143/>

CEReS 共同利用研究推進委員会からのお知らせ： <https://ceres.chiba-u.jp/collaborative/>

(共同利用推進委員長：入江仁士)

気象大学校の実験設備見学ツアー

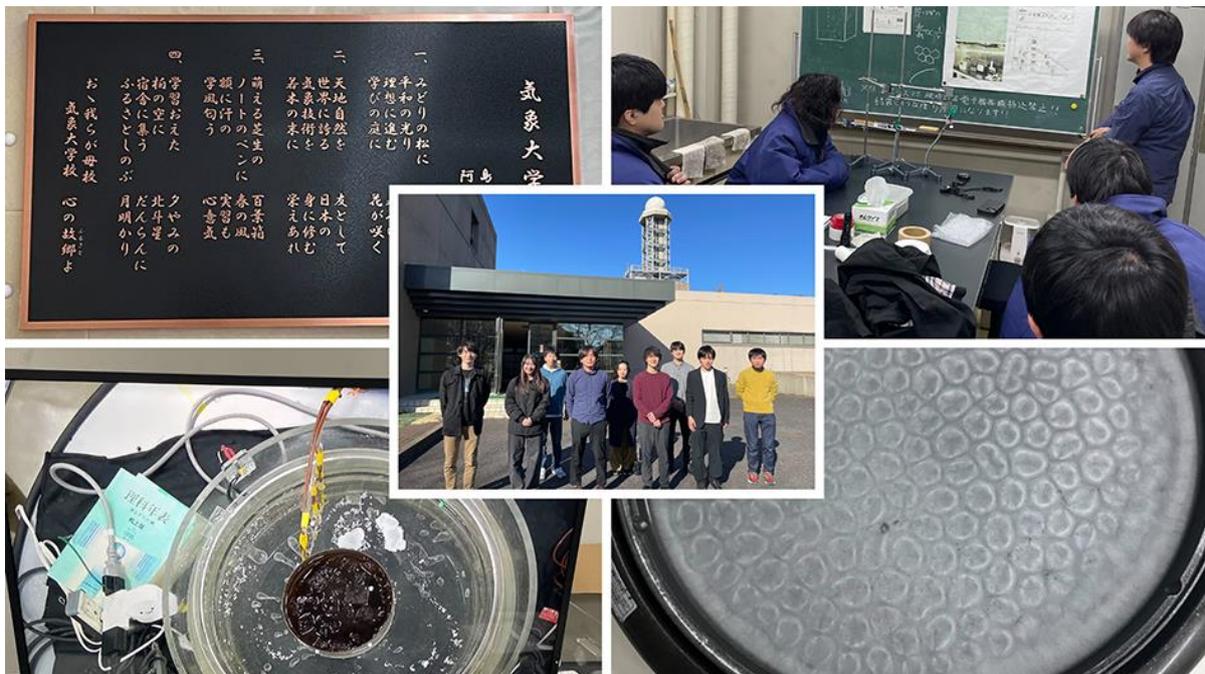
2025年2月26日、山本雄平助教と小槻・岡崎研究室の青野憲史特任研究員、市井研究室の渡辺玲奈技術補佐員、入江研究室修士1年の溝渕隼也さん（今回の見学会の発起人）、AORI（東京大学大気海洋研究所：Atmosphere and Ocean Research Institute）修士1年の中野博文さん（元小槻研究室所属）の5

名で気象大学校を訪問しました。伊藤享洋講師のご案内のもと、校内施設や実験設備を見学しました。

まず、観測露場と校舎内にある気象資料閲覧教室を訪れ、日々の気象観測や現業における予報資料の活用方法について説明を受けました。実験設備の見学では、ベナール対流を再現する装置や、傾圧不安定波を発生させる回転水槽、境界層乱流を測定する水平風洞実験装置、氷晶を作る低温実験室について、実際に装置を動かしながら説明していただきました。その他、カルマン渦を再現する回流水槽や内部重力波の実験装置についてもご紹介いただきました。この二つは準備に時間がかかるので（内部重力波の実験は準備に2か月くらいかかるそう…）、装置の概要や工夫についての説明を受けました。

見学後は、柏駅近くで懇親会を開催し、気象大学校の学生や卒業生（現・数値予報課所属）の方々といろんな話で盛り上がりました。こうした交流が、学生にとって今後の研究活動に何らかの形でプラスに働く機会となれば良いなと思っています。

(山本雄平)



中央) 第一校舎前で撮影した集合写真。

左上) 校歌。筆者（山本）は三番が好き。

右上) 氷晶生成実験について説明を受けているところ。冬だったせいか、部屋を過飽和状態に保つのが難しく氷晶は作れなかったが、 -15°C の空間を体験できたのは楽しかった。

左下) 回転水槽実験。よく見ると波数3。

右下) ホットプレートを使ったベナール対流の実験。ただこれは表面張力も効いてくるので、どっちかというところマランゴニ対流。

<発起人の声>

今回の見学会では、気象大学校の実験設備を見学し、実演を通して気象現象を実際に体験させていただきました。これまで書籍や動画でしか学べなかった内容を直接学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。特に、回転水槽を用いた傾圧不安定波の実験では、理論として理解していた現象を目の前で観察することで、その仕組みをより直感的に理解することができました。全体を通して、終始ワクワクしながら過ごすことができ、大変濃密な時間となりました。今回の経験を活かし、今後の学びをさらに深めていきたいです（溝渕隼也）。